

# 欒だより

2019. 5. 13



5月11日(土)は授業参観(並行して6年保護者対象進路講演会)・学級懇談会・PTA総会が行われました。毎年、授業参観には教室に入りきれないほど沢山の保護者の方がお見えになります。広島なぎさの教育に対する関心の高さ、期待の大きさを感ずるだけに、それに応える教育内容や授業を作っていかなければならないと身の引き締まる思いがします。

さて、この「欒だより」。日々私が感じることをニュースやエッセイの形でお届けしようと思い開設します。以前は「欒」と書いても読める人が少なかったと思いますが、最近「欒坂46」さんのお陰で小さい子どもでも読めるようになりました。

「欒(けやき)」はニレ科ケヤキ属の落葉高木で、学名を *Zelkova serrata* と言い、東アジアと日本にしかありません。だから英名は Japanese Zelkova または日本語のケヤキから Keaki wood と言います。

「けやき」という名前は、一説によると「けやけき木」(「けやけき」とは「際だって目立つ」という意味の古語です。)が変化したもののようです。確かに扇を開いたような左右対称の美しい樹形、春先の薄緑の若葉から秋の紅(黄)葉、冬空に向かってそびえる梢まで、四季を通して凜としたたたずまいを見せるこの木は、「けやけき木」と呼ぶにふさわしい木だと思います。葉は枝に互生し、縁には鋭い鋸歯(きよしノコギリの歯のようなギザギザのこと)があるのが特徴です。



私はこの欒の木が昔から大好きでしたが、本校に来たとき、この欒が中庭に7本もあるのを見て小躍りしたい気持ちになりました。緑さんざめく5月、欒の下から空を見上げると、梢を吹き抜ける風まで薄緑に染まっているような気がします。葉の隙間からのぞき見る空の青さに、啄木が言った「空にすわれし十五の心」を思い出すのです。「欒だより」は、欒のように気品のある美しい心が育つ学び舎から、私のささやかな気づきを言葉にしてお届けできたらと思います。

PTA総会での挨拶で、私は本校の1年間をまとめた冊子「轍(わだち)」のことに触れました。今回「轍」の前書きを書くにあたり「轍」という字の意味を調べてみたのですが、文字一つからでも様々なことを考えさせられました。

「轍」は車の車輪の跡という意味です。当たり前ですが、人の歩いた跡には使いません。でも、車の車輪というものを思い浮かべたとき、それは二つが対になっているものが多いと思いました。確かに一輪車というものもありますが、人が複数乗る車には必ず複数の車輪が

ついています。そう考えると、「轍」という名前は、学校という沢山の人が乗る車がつけていく跡を示す、実に的を射た名前だと妙に感心してしまいました。

両輪という言葉がありますが、教育は学校と保護者とがまさに車の両輪としてそれぞれの役割を果たしつつ、車軸のようにしっかりとつながっていてこそ創り上げられるものだと思います。保護者の皆様と一緒に本校の教育を作っていくならば、必ず立派な轍が残るにちがいありません。

「轍」に寄せて

「轍」第12号（令和元年5月発行）前書き

「轍（わだち）」は言うまでもなく、「車の通ったあと」という意味です。人が通ったあとや物が置かれていたあとには使いません。生徒や教職員一人ひとりがいて、皆で広島なぎさという大きな車に乗っている。その車が通ったあとをしっかりと残していくことには大きな意義があります。なぜなら、せっかくつけた轍も、そのまま顧みることをしなければ、やがて草や土に埋もれてしまい、後になって探しても見つからないからです。広島なぎさの1年の営みを記録する「轍」。後から振り返ったとき、くっきりと見えるような轍を刻みたいものです。

さて、平成30年度、最も記憶に残るできごとは、7月に起こった西日本集中豪雨災害ではないでしょうか。「轍」には詳しく記されることはないかもしれませんが、本校も五日間臨時休校（うち二日間は午後のみ）をしました。被災した生徒もいましたし、多くの生徒、教職員が長期に渡って登下校に不便を強いられました。また、それに続く7月～8月にかけての猛暑も災害的と言われるほど厳しいもので、本校も中学1年生の「夏遠足」を中止せざるをえませんでした。日本漢字能力検定協会が毎年京都清水寺で発表する「今年の漢字」が「災」だったのは、あまり嬉しくない字ではあったもの、誰もが納得したのではないのでしょうか。大阪や北海道の地震も集中豪雨の前後に起こりました。これらの出来事も風化させることなく、記憶にとどめておかなければなりません。そして、できれば、そうした災害に出会いながらも、不屈の精神でそれを乗り越えたり、被災地に支援の手を差し伸べたりした人々が大勢いたことも覚えておいてほしいと思います。本校でも、被害が大きかった呉地区の生徒の中には、学校に通えないのであればと、被災地の片付けに出かけた生徒がいました。中学生徒会は被災地のために募金を呼びかけました。被災した生徒を家に迎え入れた家庭もあると聞いています。こうした目立たない、しかし尊い営みも含めて「轍」が残るのだということを忘れてはならないと思うのです。

「轍」には「道」という意味もあります。轍のあとに道ができるからです。道はもちろん前に向かって伸びていきます。これから先、私たちが作っていく道は決して平坦な道では

ないかもしれませんが、その道の先に理想を見据えて力強く進んでいきたいと思います。  
くっきりと残る轍は、未来に続く道でもあるのです。

夢をのせて走る車道 明日への旅 サザンオールスターズ『希望の轍』より



## 薔薇通り

今年も体育館横のフェンスに色とりどりの薔薇が咲きました。通りの向こう側にまで香が漂ってきます。

5月中旬まで楽しめそうです。

